

様式第 2 号（第 9 条関係）

会議録

会議の名称	令和 8 年度第 1 回ふじみ野市上下水道審議会			
開催日時	令和 8 年 7 月 2 2 日（水） 開会時刻 午前 1 0 時 0 0 分 閉会時刻 午前 1 1 時 1 0 分			
開催場所	市役所本庁舎 5 階 大会議室			
出席した者の氏名	役職名	氏名	役職名	氏名
	会長	原田 晴男	都市政策部長	山風呂 敏
	委員	藤谷 克己	事務局	高橋 昌巳
	委員	近藤 孝夫	事務局	宮内 弥生
	委員	岡地 哲也	事務局	柳澤 貴史
	委員	伊藤 美枝子	事務局	上城 政道
	委員	穴田 義男	事務局	元井 幸彦
	委員	原田 一	事務局	島田 二郎
	委員	大野 千尋	事務局	松岡 大
	委員	原 義人	事務局	山崎 悟旗
			事務局	相馬 悠紀
			事務局	宮原 紳悟
			事務局	館野 沙織
			事務局	杉山 友梨子
会議の議題	(1) 令和 7 年度ふじみ野市水道事業会計決算について (2) 令和 7 年度ふじみ野市下水道事業会計決算について (3) その他			
会議の公開又は非公開の別	公開・ 非公開			
会議の非公開の理由				
傍聴人の数	0 人			
会議の内容	別紙 1 のとおり			
会議資料	・ 次第 ・ ふじみ野市上下水道審議会委員名簿 ・ ふじみ野市上下水道審議会条例 ・ ふじみ野市上下水道審議会傍聴要領 ・ 公営企業会計決算書及び決算関係書類 ・ 水道事業給水区域図 ・ 石綿管更新実績表 ・ 導・配水管延長 ・ 公共下水道事業計画図（汚水）及び（雨水） ・ 水道ビジョン・経営戦略について			

		・下水道事業経営戦略について ・水道週間パネル展結果報告について ・新マンホールカードの紹介
事務局		都市政策部 上下水道課
議事の確定	確定年月日	令和８年８月６日
	記名押印 又は署名	役職名 会長 原 田 晴 男 ㊟ ※自署の場合は、押印不要です。

- 1 開会
- 2 市長あいさつ
- 3 委嘱状交付式
- 4 新任委員自己紹介
- 5 会長あいさつ

6 議題

【報告】

(1) 令和 7 年度ふじみ野市水道事業会計決算について

○事務局から概要説明

○質疑

・質問 1

ふじみ野市の一般家庭及び事業者の上下水道料金はいくらくらいなのか。

・回答 1

一般家庭については、13mm で 2 か月使用した場合、水道料金は 2,523 円（税込）、下水道使用料は 1,172 円（税込）、合計 3,695 円（税込）となる。

事業者については、口径 50mm で 100 m³使用した場合、水道料金は 30,921 円（税込）、下水道使用料は 7,970 円（税込）であり、上下水道料金は 38,891 円となる。

・質問 2

本市の上下水道料金は県内のランキングではどの位の順位にいるか。

・回答 2

令和 6 年 1 2 月検針分から水道料金の改定を行ったが、その当時では県内の中位となった。近年、他市町村でも水道料金の値上げをしており、再び平均よりも低い水道料金となった。また、下水道使用料においては県内では 4 番目に低い料金となっている。

・質問 3

有収水量と有収率とは。

・回答 3

有水水量は料金徴収の対象となった水量である。有収率は 100% が望ましいが、地中にある水道管を通る際にどうしても漏水してしまうため、100% への到達は難しいのが現状である。石綿セメント管の更新が完了し、有収率は年々向上している。

- ・ 質問 4

県水の単価が上がるとのことだが、それを含めて料金改定を行ったのか。

- ・ 回答 4

県水の単価は令和 8 年 4 月 1 日から上がっている。令和 6 年 1 2 月検針分から行った水道料金の改定については、今回の県水の単価の上昇を見込んで改定をした。

(2) 令和 7 年度ふじみ野市下水道事業会計決算について

- 事務局から概要説明

- 質疑

- ・ 質問 1

公共下水道未整備地区における污水管渠整備事業について、大井・苗間、駒林、川崎地区の整備状況について教えてほしい。この 3 地区の整備が終了した際は、他の未整備地区も継続して行う予定はあるのか。

- ・ 回答 1

整備の状況について、駒林地区は 31.2%、川崎地区は 16%、大井・苗間地区は 29.8%の進捗状況となっている。整備状況を鑑み、今後の整備地区を選択していく。

- ・ 質問 2

資料 2 - 1 の面積の表示で上段と下段に分けられているが、違いは何か。

- ・ 回答 2

上段は下水道を整備する全体計画の面積であり、下段は認可面積である。認可面積は、整備済みの面積と向こう 5 年間で整備予定の面積の合計値である。なお、事業認可を受けている部分については、5 年毎に策定している事業計画に基づき整備を進める予定である。

(3) その他報告事項について

ア 水道事業及び下水道事業経営戦略について

- 事務局から概要説明

- 質疑

- ・ 質問 1

川崎調整池が竣工されたが、今後も市内で雨水調整池が整備される計画はあるのか。

- ・ 回答 1

令和 7 年度に区画整理事業で国道 254 号バイパス沿いに調整池が整備されており、令和 8 年度に本市に管理移管される予定である。

- ・ 質問 2

石綿セメント管からダクタイル鋳鉄管等への更新が行われたが、どのく

らの割合でダクトイル鋳鉄管や塩ビ管が使われているのか。

・ 回答 2

市内全域に渡って、配水管は約 330km あり、鋳鉄管・ポリエチレン管・塩ビ管が混在して使われている。

現在、更新管種としてはダクトイル鋳鉄管（DIP-GX）とハイポリエチレン管（HPPE）を使用しているが、使い分けとしてはφ150mm がその 2 種の分岐点となっている。

ハイポリエチレン管は、当市のような狭隘な道路での施工には運搬が容易であり、耐用年数も 100 年を超えるという実験データも出ている。

現在、ダウンサウジングを実施しており、使い分けとしては HIVP 管については補助管として使用している。管種使用割合の詳細は資料が手元にないので、この場で回答できない。管の使い分けについてはφ150mm 程度を選択できる場合は、道路幅員や交通量、積載荷重（重交通か否か）等を考慮の上、管種を選択している。

※使用管種の割合に関する資料は、後日委員宛てに送付することとした。

イ 水道週間パネル展結果報告について

○事務局から概要説明

○質疑

質問事項無し

ウ 新マンホールカードの紹介

○事務局から概要説明

○質疑

質問事項無し

8 その他

次回審議会の日程について

9 閉会